



A 協力：佐賀県立名護屋城博物館

硫黄島

長濱吉延の見た風景(朝鮮出兵)

硫黄島の八朔太鼓踊りは、文禄・慶長の役、いわゆる朝鮮出兵で長濱権之丞吉延がたてた武功を記念した祭りだとされる。朝鮮出兵(1592〜1598年)は、豊臣秀吉による大規模な海外侵略で、A現在の佐賀県唐津市に巨大な肥前名護屋城を築き、この城を拠点に出兵した。

名護屋城には、日本各地から160家以上の大名や武将、その家来や商人が集まり、人口が20万人を越えたこともあった。訪れたポルトガル宣教師は「城下にはB大名たちの家屋や商家、旅館などすさまじい数の建物が建てられた」と記録している。城内には、C秀吉による茶室や能舞台も造られている。

戦は、文禄の役と慶長の役の2回。硫黄島から吉延と岩切長右衛門、渡辺長左衛門が、島津義弘の軍に志願した。D特に慶長の役は、秀吉の死去で侵攻は中止、撤退となった。E硫黄島の兵は吉延のみ生き残り、逃れる途上、海上などで島津義弘の危機を助け、帰国する。F後に義弘より礼として、熊野神社が再建され、兜などの褒美が与えられた。

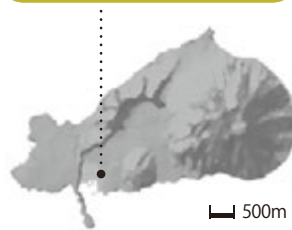
小さな島から日本の権力者が集う地へ赴き、そして異国の地を踏んだ吉延には、朝鮮出兵がどのように見えただろうか。また、朝鮮の人々には、船で押し寄せる吉延らがどう見えただろうか。隣国である朝鮮と日本は、お互いに忘れられない過去も多い。吉延の見た風景はそのうちのひとつで、様々な角度で語り継がれるべき話でもある。

思い出話

「昔、黒木御所の床間にガラスケースに入った鎧がありました。」

硫黄島地区 80代女性

黒木御所(長濱家住居跡)



12